



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

学術情報リポジトリ

はじめに

| | |
|-----|---|
| 著者 | 乾 順子, 内藤 葉子 |
| 引用 | 女性学講演会. 2022, 第25期 |
| URL | http://hdl.handle.net/10466/00017869 |

はじめに

今期の女性学講演会は「計量分析から読み解くジェンダーと家族」というテーマで2021年10月23日にオンライン開催されました。家族という領域は、ジェンダーの問題が性別役割分業として表出し、あるいは覆い隠される場面が頻出する領域の1つだと言えます。

本講演会では、日本家族社会学会による全国家族調査（National Family Research of Japan）データをもとに、高齢者のケアについての意識、成人子と親の関係、離婚後の経済状況などを計量的に明らかにするとともに、1999-2019年のデータから見えてくる日本の家族についての規範や実情、課題を概観し、今後の動向や対応策について考える機会となることを目的として行われました。

NFRJは、質問紙を使った日本の家族に関する学術調査です。この調査の目的は、研究者が利用可能な無作為抽出に基づく全国確率標本データを定期的に構築すること、そうしたデータを多くの研究者の公共利用に供することの2点です。このような無作為抽出されたデータは、日本全国からまんべんなくデータが集められ、日本の縮図のような形になっています。

第1報告では家族意識（老親ケアに関する意識）がどのように変化してきたのか、特に世代（出生コーホート）と時代、そしてジェンダーに焦点を当てて、どこが変化し、どこが変化していないのかを読み取ります。第2報告では、おとな親子関係の実態、とくに夫方と妻方の親との関係が居住関係やきょうだい数等との関連で描きだされます。第3報告では、結婚、離婚の性別格差に焦点を当てて、結婚経歴と所得格差の関連や離婚によって受ける影響の性別による格差が明らかにされます。

これらを踏まえてジェンダーの視点からとらえるとはどういうことか、また今後の家族の動向や対応策、新たな問いについて考えました。

女性学講演会に参加して下さった方々に心よりお礼申し上げます。

2022年3月31日

コーディネーター 乾順子・内藤葉子
(大阪府立大学教員、女性学研究センター)